



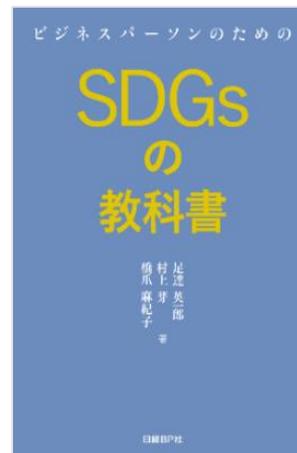
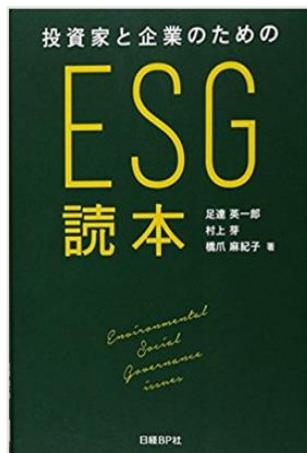
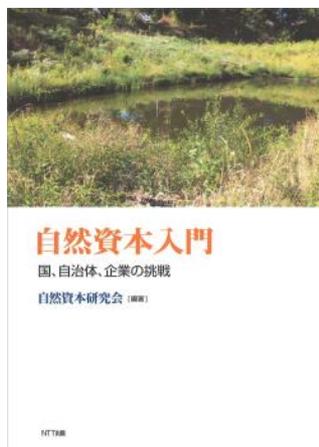
ステークホルダー資本主義

株主至上主義から地球環境をも視野に入れた新たな資本主義への脱皮

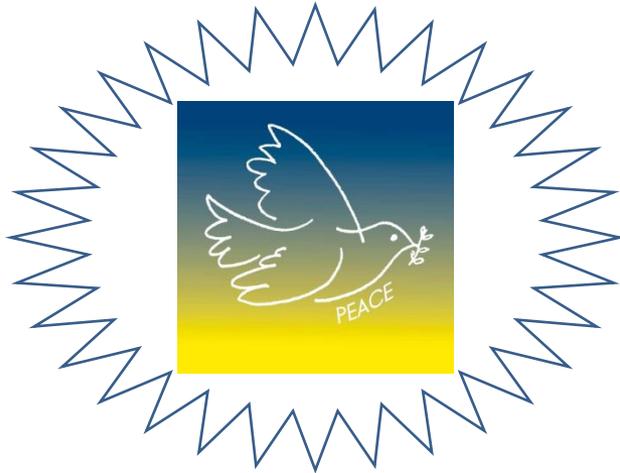
2022年3月16日

簡単な自己紹介

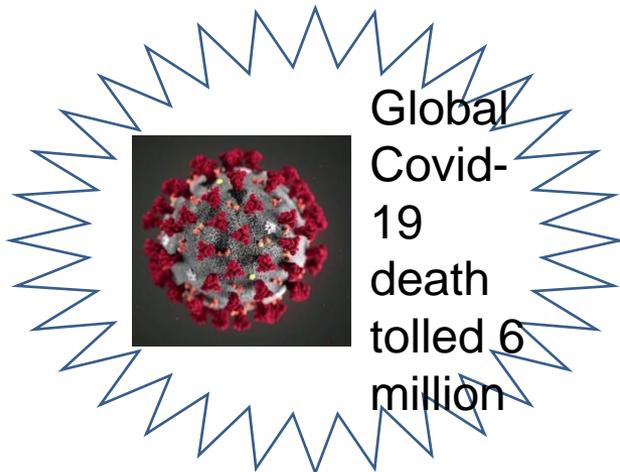
- 1993年 英国・ナショナルウエストミンスター銀行の環境対策に邂逅
- 1999年 わが国で4番目となるエコファンドのための企業調査を開始
- 2002年 経済同友会「『市場の進化と21世紀の企業』研究会」ワーキンググループメンバー
- 2003年 わが国初の企業年金からの「社会的責任投資」型運用のための企業調査を開始
- 2005年 ISO26000(組織の社会的責任に関する国際規格)作業部会の日本国エキスパート
- 2008年 日本経済新聞にてESG課題と金融をテーマとした寄稿(月次)をスタート
- 2019年 ISO32210(サステナブル・ファイナンスに関する国際規格)作業部会の日本国エキスパート



この数カ月にあいだの出来事について



ロシア依存の
代償を払う欧
州 原発か石
炭か、苦渋の
選択



Global
Covid-
19
death
tolled 6
million

「コロナとの共
存」に踏み切
る欧州、英コロ
ナ規制はほぼ
全面撤廃

筆者の問題意識

ミルトン・フリードマン (1970)
The Social Responsibility of Business
is to Increase its Profits.

米 ビジネス・ラウンドテーブル (2019)
A new Statement
on the Purpose of a Corporation

株主至上の

資本主義

- かつては経済成長のエンジンとして機能したことは間違いない。ただし、格差拡大と環境破壊を引き起こし弊害甚大に。

ステークホルダー

資本主義 1.0

- 現代の企業が、幅広いステークホルダーの支持を集められなければ価値を生み出せないという仮説は説得力がある。しかし、格差拡大と環境破壊を本当に、是正できるだろうか。

ステークホルダー

資本主義 2.0

- ステークホルダーとして「地球環境」と「未来世代」を位置付けることを模索。
- 「経済は全てを癒やす」、「経済成長は常に目指すべきこと」という思考を一旦、棚上げにしてモノを眺めてみようという提案。

SDGsウェディングケーキから考える



(出所) Azote Images for Stockholm Resilience Centre, Stockholm Universityをもとに一部を翻訳して作成

時間軸の悲劇(Tragedy of the Horizon)とは

2015年9月29日 のBreaking the tragedy of the horizon – climate change and financial stability(時間軸の悲劇を打ち破る-気候変動と金融の安定) と題するスピーチから抜粋。

1980年代以降、登録された気象関連の損失事故の数が3倍になりました。そして、これらの事故によるインフレ調整後の保険損失は、1980年代の年間平均100億米ドルから、過去10年間で年間約 500億米ドルまで増加しています。

現在の気候変動問題は、今後起こり得るものに比べると色褪せているかもしれません。あなた方の中の洞察力に富んだ方は、資産や人口の移動、政治的安定性、そして食料や水の安全などへの幅広い地球規模での影響を見越されています。

それなのに、なぜその問題への対応が今なされていないのでしょうか。環境経済学の古典的な問題は、コモンの悲劇（共有地の悲劇）です。その解決策は、財産権と供給管理の中に見出されます。

気候変動は時間軸の悲劇です。気候変動の壊滅的な影響が、伝統的な領域を超えて及んでいくであろうことは、アクチュアリーたちに言われるまでもありません。今の世代が備えようとしなかったコストを将来の世代に押し付けているのです。

つまり、ビジネスサイクル（景気循環）、政治サイクル、自らの権限によって縛られる中央銀行のような専門行政機関の時間軸を越えて、それらのコストが生じるのです。金融政策の範囲は2～3年の広がりです。金融の安定のための範囲はもう少し長いのですが、しかし、一般的にはクレジット・サイクル（信用サイクル）よりも少し長い約10年までです。言葉を替えると、一旦気候変動が金融の安定のための決定的な問題となっていると判明すると、その時にはすでに手遅れかもしれません。



Mark Carney,
the Governor of the Bank of
England

(出所)Bank of England HP

「経済は全てを癒やす」、「経済成長は常に目指すべきこと」の隘路

- わが国における「失われた30年」が物語るもの
- 人口減少は絶対的な前提条件
- 資本収益率 r と経済成長率 g の差 $r-g$ が存在、格差の拡大の要因に
- 政治家、官僚、企業経営者など、自らの利害が「経済成長」に依存している立場の存在
- 短視眼的な対策、真の問題解決の先送り
- 若年層ほど、生气と希望を失っている
- 地球環境の劣化は、人の財産、健康、生命を脅かし始めている

ステークホルダー資本主義 2.0 として提言したいこと

- シルバー民主主義を是正する
- 子どもを社会全体の宝として、保護者だけに責任を負わせない
- 子どもの社会への参加を徹底する
- ひとりひとりが、最低限の生きる能力を身に着けられるようにする
- 企業も栄枯盛衰を受け入れる / 転職の不利益を一掃する
- 物質と切り離された経済を志向する
- 外部不経済を真っ当にコストとして上乗せする
- 首都機能移転構想をもう一度考える

あえて「金融の可能性」に期待する

- 金融資産保有者はマス化してきており、その目的は「将来への備え」である
- ユニバーサル・オーナーとしての合理性から、短視眼的行動を回避できる
- インパクトを考慮する金融の萌芽
- タクソミー(Taxonomy)という画期的な発明
- 自然資本と金融を結び付ける可能性
- サステナブルファイナンス(Sustainable Finance)という新領域の出現
- 地球環境と未来世代のための研究・イノベーションを、この国でどう活性化できるか？そのときの、金融の役割とは？

ご清聴頂き、有難うございました